

千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第18週 (4/29-5/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	12	15	17	17
	眼科	2	3	4	4
	インフルエンザ*	21	21	27	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/29-5/5	4/22-4/28	4/15-4/21	4/8-4/14	4/22-4/28
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	2	2	8
			0.00	0.00	0.12	0.12	0.06
	咽頭結膜熱		0	3	2	3	55
			0.00	0.20	0.12	0.18	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	45	35	39	412
			1.42	3.00	2.06	2.29	3.30
	感染性胃腸炎		47	114	166	94	831
			3.92	7.60	9.76	5.53	6.65
	水痘		5	17	10	21	135
			0.42	1.13	0.59	1.24	1.08
	手足口病		0	0	0	0	4
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
インフル	伝染性紅斑		1	1	2	0	8
			0.08	0.07	0.12	0.00	0.06
	突発性発しん		4	14	15	11	70
			0.33	0.93	0.88	0.65	0.56
	百日咳		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	流行性耳下腺炎		2	1	0	2	25
			0.17	0.07	0.00	0.12	0.20
	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	32	61	32	19	194
			1.52	2.90	1.19	0.73	0.99
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	流行性角結膜炎		1	1	1	2	20
			0.50	0.33	0.25	0.50	0.67
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
基幹定点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0	1	0	0
			0.00	0.00	1.00	0.00	0.00
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	1	0	0
			0.00	1.00	1.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	70歳代	QFT	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出	風しん	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	20歳代	臨床診断	風しん	女性	40歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出	-	-	-	-

・結核1件(64)、風しん6件(115)の報告があった。

()内は2013年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第18週のコメント

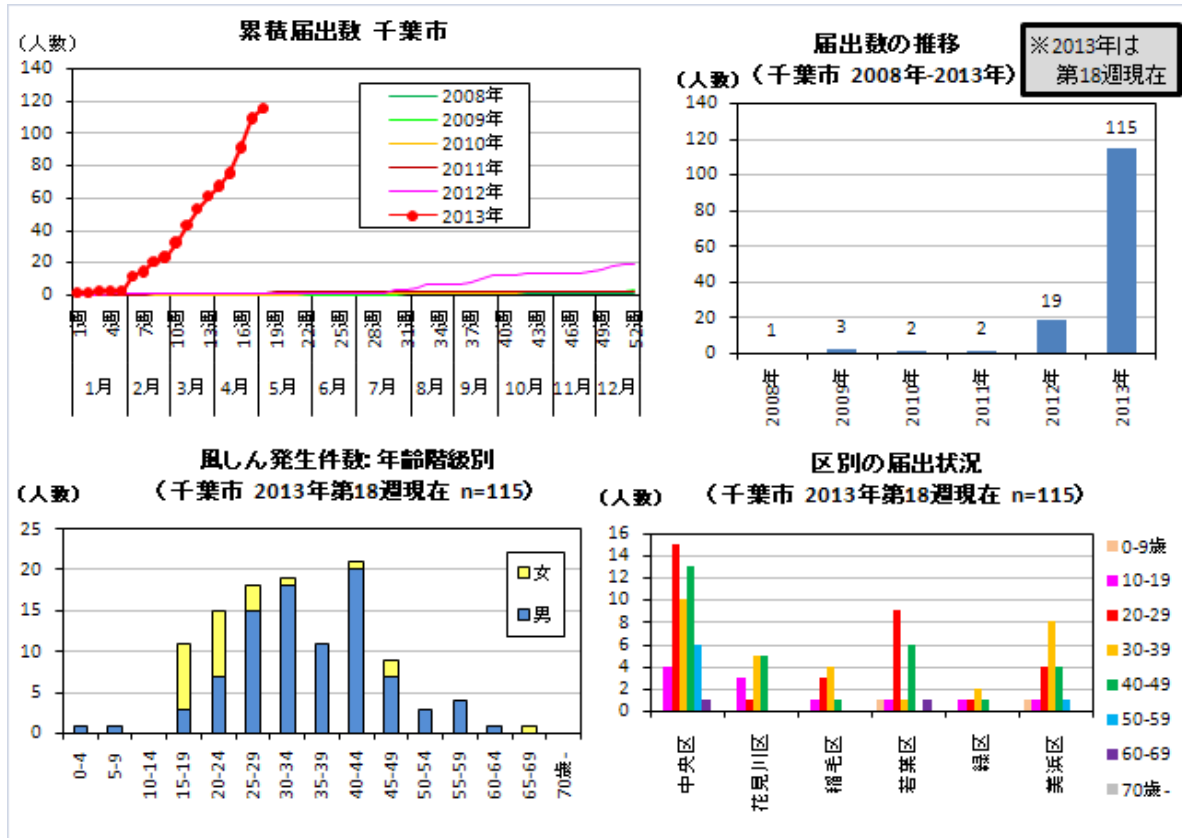
<インフルエンザ>前週より減少し1.52となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

<風しん>

全国で風しん発生報告数が増加しており、2012年の報告数は過去5年間で最多となりました。それに伴い先天性風しん症候群の発生も増加し、2004年の10例に次ぐ5例となっています。本年も発生数は高いまま推移しており、第17週の全国レベルの累積発生数は5442と過去5年の同時期と比べて約40倍～170倍と非常に多くなっています。また先天性風しん症候群の届出は5例となり、第17週現在で2012年一年間の発生数と並びました。風しんや先天性風しん症候群の増加傾向は数年持続することが知られています。

千葉市でも同様に持続的に増加していますが、第6週(2月初頭)から急激に増加し始め、第18週現在の累積報告数は115件となり、2012年一年間の発生数19件に対し、すでにおよそ6倍となっています。年齢構成は、5歳代で区切ると10歳代後半から40歳代前半までが多く、特に40歳代前半が全体の23.1%を占め最も多くなっています。全体の79.1%が男性となっています。



先天性風しん症候群とは、免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかることによって、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に起こる障害のことです。日本は10万人当たり1.8～7.7人となっています。

三大症状は先天性心疾患、難聴(高度難聴であることが多い)、白内障で、その他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたり、それ自体の治療法はありません。予防が重要となります。

予防で重要なことは、予防接種を受けて十分高い抗体価を保有することです。既に自然感染で免疫を獲得していることが明らかな方以外は風しんワクチンで免疫を付ける必要があります。

先天性風しん症候群の発生予防のため、風しんの定期予防接種対象者は必ず受けるようにしてください。

- ・ 1歳以上2歳未満
- ・ 5歳以上7歳未満で小学校入学前年度1年間

また、妊婦への感染を抑制するため、特に次の方は予防接種を受けることを是非検討して下さい。

1. 妊婦(抗体がない又は抗体価が低い者に限る)の夫、子供及びその他の同居家族
(妊婦自身は接種不適当なので除く)
2. 10代後半から40代の女性(特に、妊婦希望者又は妊娠する可能性の高い者)
3. 産褥早期の女性
(妊娠中の接種は不適当であるため:授乳中でも乳児に影響はない)
4. 成人男性

なお、千葉市は「先天性風しん症候群」の発生を予防するための緊急対策として、妊娠を考えている方の、風しん、または、MR(麻しん・風しん混合ワクチン)の予防接種費用を一部助成します。詳細は下記のページをご覧ください。

「風しん予防接種への助成を開始します。～生まれてくる赤ちゃんを守るために～」

<http://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kenkou/hokenjo/kansensho/Rubella.html>